

# 第7次広島県病院事業経営計画 骨子

## 第I章 計画の基本的な考え方

### 1 計画趣旨

第6次広島県病院事業経営計画（以下「前経営計画」という。）の計画期間が満了することから、これまでの取組の成果や課題の振り返りや外部環境の変化などを踏まえ、更なる経営強化の取組により持続可能な地域医療提供体制を確保していくため、目指すべき姿を明確にするとともに、その実現に向けた取組方策や目標を定め、職員が一丸となって取り組むべき指針として第7次広島県病院事業経営計画（以下「本経営計画」という。）を策定する。

### 2 計画期間

令和6（2024）年度（1年間（※））

※ 「高度医療・人材育成拠点基本計画」において、現県立病院の経営形態については、令和7（2025）年度から地方独立行政法人による運営が計画されており、地方独立行政法人法で定める中期計画を新たに策定するため、本経営計画の期間は1年間とする。

### 3 計画の位置づけ

本経営計画は、総務省が「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン（以下「経営強化ガイドライン」という。）」（令和4（2022）年3月29日付け総財準第72号総務省自治財政局長通知）により、病院事業を設置する各地方公共団体に策定を求める「公立病院経営強化プラン（以下「経営強化プラン」という。）」（図表1）に位置づけられるものである。

図表1 公立病院経営強化プランの内容

<p><b>(1) 役割・機能の最適化と連携の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能</li><li>・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能</li><li>・ <b>機能分化・連携強化</b></li></ul> <p>各公立病院の役割・機能を明確化・最適化し、連携を強化。 特に、地域において中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約して医師・看護師等を確保し、基幹病院以外の病院等は回復期機能・初期救急等を担うなど、双方の間の役割分担を明確化するとともに、連携を強化することが重要。</p> <p><b>(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>医師・看護師等の確保</b>（特に、不採算地区病院等への医師派遣を強化）</li><li>・ 医師の<b>働き方改革</b>への対応</li></ul> <p><b>(3) 経営形態の見直し</b></p> <p><b>(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組</b></p> <p><b>(5) 施設・設備の最適化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 施設・設備の適正管理と整備費の抑制</li><li>・ デジタル化への対応</li></ul> <p><b>(6) 経営の効率化等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 経営指標に係る数値目標</li></ul>
---

（出典）総務省「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドラインの概要」から一部抜粋

## 第Ⅱ章 病院事業を取り巻く環境

### 1 医療を取り巻く環境

#### (1) 少子高齢化の進展

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本県の人口減少は今後も加速するものと予測され、総人口は令和7（2025）年に270.3万人、令和27（2045）年に232.8万人になると見込まれている。また、高齢者人口は令和27（2045）年には85.3万人に達し、更なる少子高齢化の進行に伴い、高齢化率は36%に達すると見込まれている。

#### (2) 医療の高度化

医療の高度化として、ゲノム診療の進歩や遺伝子治療薬の開発、ロボット技術の導入などにより、がんなどの難治性疾患に対する高度な治療が可能となっている。

#### (3) 医療費の増大

我が国の医療費は、高齢化の進展や医療の高度化などを背景に年々上昇しており、令和4（2022）年度の国民医療費は46.0兆円で、前年度に比べて1.8兆円の増加となっている。国においては、診療報酬の抑制を含め、医療費の増加を抑制する政策を打ち出している。

#### (4) 医師の働き方改革

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」（平成30（2018）年法律第71号）により、令和元（2019）年度から時間外労働の上限規制が導入され、医師については適用が5年間猶予されていたが、その後の「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律」（令和3（2021）年法律第49号）に基づき、令和6（2024）年度から適用が開始されることとなった。

#### (5) 新興・再興感染症

公立病院は、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）への対応において、積極的な病床確保と入院患者の受入をはじめ、発熱外来の設置やPCR検査、ワクチン接種などで中核的な役割を果たしているところであり、感染症拡大時に公立病院の果たす役割の重要性が改めて認識された。新興感染症等への対応については、国の第8次医療計画における記載事項として「新興感染症発生・まん延時における医療」が盛り込まれることとされている。

### 2 公立病院を取り巻く環境

#### (1) 公立病院の状況

全国の病院のうち、病院数で約11%、病床数で約15%を占める公立病院は、へき地における医療や、救急・災害・周産期など、不採算・特殊部門に係る医療の多くを担っているが、近年、病院数、病床数ともに、減少傾向にある。

## (2) 公立病院経営強化ガイドライン

病院事業を設置する地方公共団体は、各地方公共団体が各々の地域と公立病院が置かれた実情を踏まえつつ、経営強化ガイドラインを参考に「役割・機能の最適化と連携の強化」「医師・看護師等の確保と働き方改革」「経営形態の見直し」「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」「施設・設備の最適化」「経営の効率化等」の6つの視点からなる経営強化プランの策定が求められている。

## (3) 経営形態の多様化

公立病院の経営形態は、総務省が平成19(2007)年12月に示した公立病院改革ガイドラインを契機とした各自治体の経営形態見直しなどにより、地方独立行政法人への移行や、地方公営企業法の適用拡大(全部適用)、指定管理者制度の導入等、経営形態の多様化が進んでいる。

また、医療機関の相互の機能分担や業務の連携を推進することを目的とした、地域医療連携推進法人制度が平成29(2017)年4月に施行され、医療法人や社会福祉法人、大学、公益法人、(地方)独立行政法人あるいは自治体など、様々な組み合わせによる法人の設立が全国で進められている。

## 3 広島県の医療状況

### (1) 医療提供体制

#### ア 医療施設

本県の令和2(2020)年の病院数は237施設で、平成2(1990)年をピークに近年は減少傾向にあり、人口10万人当たりでは8.5施設で、全国の6.5施設を2.0上回っている。

本県の令和2(2020)年の一般診療所数は2,533施設で、近年、無床診療所は微増傾向、有床診療所は減少傾向だが、平成27(2015)年から令和2(2020)年にかけて無床診療所も減少に転じ、人口10万人当たりでは90.5施設で、全国の81.3施設を9.2上回っている。

#### イ 医師数

本県の令和2(2020)年の医師数は7,805人で、人口10万人当たりの医師数は278.8人となり、全国の269.2人を9.6上回っているが、近年、全国との差が縮まる傾向にある。

### (2) 受療動向(年齢別の受療率)

入院、外来ともに、年齢が高くなるに従って受療率(人口10万人あたりの患者数)が高くなる傾向にある。また、入院受療率は15歳以上、外来受療率は0～4歳及び45歳以上の年齢区分で全国値を上回っている。

## 4 広島県の取組

### (1) 安心▷誇り▷挑戦ひろしまビジョン

未来を担う次の世代にしっかりとバトンを託すため、概ね30年後の「あるべき姿」を構想し、10年後の「目指す姿」とその実現に向けた取組の方向性を描き、県民の皆様を示すものであり、目指す姿として掲げる「安心」「誇り」「挑戦」の実現に向けて、様々な施策を相互に関連させ、相乗効果を創出する。

## (2) 広島県保健医療計画

令和6(2024)年度を始期とする第8次広島県保健医療計画の基本理念は、第7次広島県保健医療計画の基本理念を継承し、質が高く切れ目のない医療提供体制と地域包括ケアシステムの一体的な構築を目指す地域医療構想を踏まえて、次のとおりとされている。

県内どこに住んでいても、生涯にわたっていきいきと暮らすことができるよう、  
質が高く安心できる保健医療提供体制を地域包括ケアシステムと一体的に構築します。

## (3) 広島県地域医療構想

県では、団塊の世代が75歳以上となり、人口の3割以上が65歳以上の高齢者となる令和7(2025)年を見据え、限られた医療・介護資源を効果的に活用するため、病床の機能の分化及び連携による、質の高い医療提供体制の整備、在宅医療の充実をはじめとした地域包括ケアシステムの確立、医療・福祉・介護人材の確保に関する施策の方向性を示すものとして、地域医療構想を策定した。

## (4) 広島がん高精度放射線治療センター

広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)は、広島都市部の4基幹病院(広島大学病院、広島赤十字・原爆病院、広島市民病院、県立広島病院)の連携を推進し、高度で効果的な医療提供体制の充実・強化を図るとともに、放射線治療医や医学物理士などの研修を受け入れて、人材育成を実施している。

### 第三章 病院事業の基本方針と各病院の目指す姿

#### 1 病院事業の基本方針

令和4（2022）年3月には、総務省から経営強化ガイドラインが新たに示され、各地方公共団体が各々の地域と公立病院が置かれた実情を踏まえつつ個々の公立病院が地域医療構想などを踏まえて、地域において果たすべき役割・機能を果たすために必要となる医師・看護師などの確保と働き方改革、経営形態の見直し、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組、施設・設備の最適化、経営の効率化等に取り組むことを記載した、経営強化プランの策定を求められたところである。

県では、令和6（2024）年度を始期として、医療法に基づく「第8次広島県保健医療計画（「広島県がん対策推進計画」、「広島県循環器病対策推進計画」及び「広島県医療費適正化計画」と一体的に策定。）」や老人福祉法及び介護保険法に基づく「第9期ひろしま高齢者プラン」などを策定したところであり、当該計画等で定める5疾病6事業に係る切れ目のない医療提供体制の確保や地域包括ケアシステムの充実などの施策に沿って、県立病院としての役割を安定的かつ継続的に担うことが重要である。

経営強化プランに位置づけられる本経営計画においても、県全体における医療提供体制の確保に引き続き貢献するために、県立広島病院（以下「広島病院」という。）は高度急性期医療を中心に、県立安芸津病院（以下「安芸津病院」という。）は一般急性期医療を担いつつ地域包括ケアシステムの質の向上に貢献する。

#### 2 各病院の目指す姿

各病院の目指す姿を設定し、それぞれの役割・機能を発揮する医療機能の強化などにより県民の皆様に信頼される病院づくりに取り組む。

図表2 各病院の目指す姿

##### 【広島病院】

目指す姿

三次保健医療圏（広島県全域）を視野に入れ、保健医療計画に沿った救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療などの領域を中心に、高度急性期機能の維持・強化を図るとともに、災害時における医療体制を整備することで、基幹病院としての役割を果たす。

地域医療で活躍する人材の確保・育成に取り組むことで、県全体の医療水準の向上に貢献する。

##### 【安芸津病院】

目指す姿

地域住民の健康と暮らしを支えるため、二次救急医療の病院群輪番制病院体制や小児医療体制などの維持に努めることで、地域の中核的病院としての役割を果たす。

地域の医療施設、介護施設、行政機関などと連携し、在宅療養支援の充実や予防医療の強化などを図ることで、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献する。

## 第IV章 県立病院の現状分析

### 1 県立病院の概要と役割

広島県病院事業は、地方公営企業法を全部適用し、県の基幹病院としての役割を担う広島病院と、地域の中核的病院としての役割を担う安芸津病院の2病院を設置・運営している。

### 2 病院事業の経営状況

#### (1) 収支の状況

病院事業全体の収支の状況は、平成29(2017)年度以降、概ね収支均衡の状況が継続されている。

令和2(2020)年度以降は新型コロナウイルスの影響により、入院患者数及び外来患者数が減少傾向にあるとともに、物価・光熱費の高騰など社会情勢の影響により、給与費、材料費及び経費などが増大する中で、県立病院としての機能を発揮することにより収益の確保を図った。

その結果、県立病院としての機能を発揮しつつ、新型コロナ患者の入院受入などの対応を進めたことにより、医業外収益として他会計補助金を受け入れたことから、収支を均衡させることができた。

なお、各病院の前経営計画期間中における経常収支は、広島病院は令和元(2019)年度を除いて黒字となり、安芸津病院は令和3(2021)年度を除いて赤字となった。

図表3 収支状況

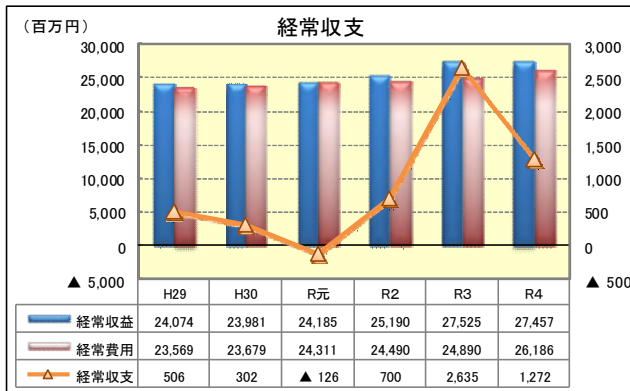
(単位：百万円)

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
病院事業収益						
医業収益	23,831	23,501	23,998	22,950	23,341	24,615
医業外収益	2,259	2,381	2,079	4,159	6,300	4,944
特別利益	1	3	4	391	1	5
合計	26,091	25,884	26,081	27,501	29,641	29,564
病院事業費用						
医業費用	24,990	25,149	25,760	26,011	26,520	27,950
医業外費用	603	565	571	496	447	386
特別損失	989	983	26	392	4	148
合計	26,583	26,697	26,357	26,900	26,971	28,484
医業収支	▲1,159	▲1,648	▲1,762	▲3,061	▲3,179	▲3,335
経常収支	496	167	▲254	602	2,674	1,223
純損益	▲492	▲813	▲276	601	2,670	1,080
経常収支比率	101.9%	100.6%	99.0%	102.3%	109.9%	104.3%
医業収支比率	95.4%	93.4%	93.2%	88.2%	88.0%	88.1%
病床稼働率	86.2%	78.4%	77.7%	69.5%	64.2%	66.7%

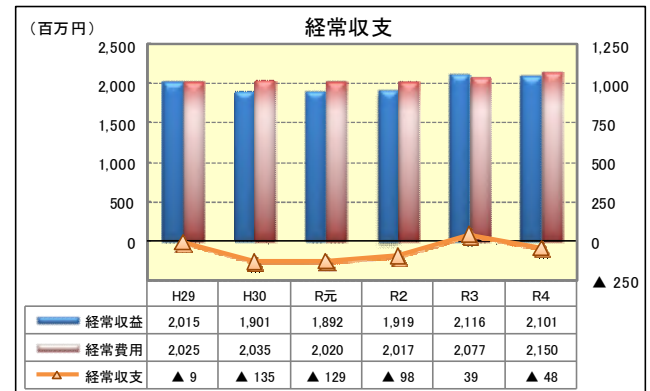
(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

図表4及び5 各病院の経常収支推移

【広島病院】



【安芸津病院】



## (2) 広島病院

### ア 入院患者数

新規入院患者数は、新型コロナの影響などにより令和2（2020）年度に減少した後に、回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準に戻っていない。また、延入院患者数は、新規入院患者数の状況に加え、平均在院日数の短縮に取り組んだことにより減少傾向にある。

### イ 外来患者数

初診患者数は、新型コロナの影響などにより令和2（2020）年度に減少した後に、回復傾向にあるもののコロナ禍前の水準に戻っていない。また、延外来患者数は、初診患者数の状況に加え、逆紹介の推進により減少傾向にある。

### ウ 診療単価

入院単価は、診療報酬における施設基準・加算の新規取得や新型コロナ診療などにより増加している。また、外来単価は、高額医薬品の使用量の増などにより増加している。

## (3) 安芸津病院

### ア 入院患者数

新規入院患者数及び延入院患者数は、診療圏域の人口減少に加え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナの影響などにより減少している。

### イ 外来患者数

延外来患者数は、診療圏域の人口減少に加え、平成30年7月豪雨災害や新型コロナの影響などにより減少している。また、初診患者数は減少傾向である一方で、発熱外来受診者数の増などにより令和3（2021）年度から令和4（2022）年度にかけて増加している。

### ウ 診療単価

入院単価は、地域包括ケア病床の活用や新型コロナ診療などにより増加している。また、外来単価は、高額医薬品の使用量の増などにより増加している。

### 3 前経営計画の取組状況

#### (1) 取組方針

前経営計画においては、「医療機能の強化」、「人材育成機能の維持」、「患者満足度の向上」、「経営基盤の強化」の4つの領域を取組の柱として掲げ、取組を着実に進めてきた。

#### (2) 主な取組及び成果（指標ごとの年次目標及び実績は巻末資料参照）

	取組実績
<b>広島病院</b> <b>【重点的取組】</b> ○医療機能の強化・患者満足度の向上 ○地域完結型医療への取組 ○業務改善・経営基盤の強化 ○医療を担う人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 救急医療について、県全体を俯瞰する救命救急センターとして、救急車受入台数は目標を上回り、三次救急患者数も増加した。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 救急車受入台数 H29:6,066台→R4:7,757台（目標6,500台）</li> </ul> </li> <li>○ 成育医療について、総合周産期母子医療センターとして、1,000g未満出生新生児患者数の受入県内割合5割超を維持するとともに、緊急母体搬送受入件数や生殖医療科採卵件数が増加した。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 緊急母体搬送受入件数 H29:165件→R4:187件（目標125件）</li> <li>◆ 生殖医療科採卵件数 H29:284件→R4:402件（目標300件）</li> </ul> </li> <li>○ がん医療について、ゲノム診療科を設置（R4年度～）し、がんゲノム医療提供体制の強化によりがんゲノム検査件数が増加した。また、「がんゲノム医療拠点病院」の指定（R5年度～）を受けた。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ がんゲノム検査件数 H29:7件→R4:189件（目標180件）</li> </ul> </li> <li>○ 新型コロナ対応について、「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、広島県内医療機関の中で最大数の専用病床（93床（R4年度））を確保し、中等症以上の感染患者を中心とした入院受入及び感染妊婦の分娩を県内の医療機関で最も多く行った。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 入院受入患者数 R4:延9,507人（うち中等症以上4,895人）</li> <li>◆ 感染妊婦分娩数 R4:45件</li> </ul> </li> </ul>
<b>安芸津病院</b> <b>【重点的取組】</b> ○地域包括ケア構築への貢献 ○地域の医療資源の維持 ○業務改善・経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域包括ケア病床について、長期入院ニーズに対応し、21床から29床に8床増床（H29年度～）するとともに、訪問診療・看護による在宅療養支援の充実や健（検）診など、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献した。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 健（検）診件数 H29:2,715件→R4:2,940件（目標2,790件）</li> </ul> </li> <li>○ 二次救急医療の病院群輪番制病院体制や小児科診療を維持するなど一定の医療水準を維持しながら、骨粗鬆症外来などの専門外来（H29年度～）や整形外科のアウトリーチクリニック（R元年度～）を実施するなど、地域で必要とされる医療を提供した。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 専門外来受診患者数 H29:328人→R4:1,058人（目標950人）</li> </ul> </li> <li>○ 新型コロナ対応について、「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、入院患者の受入、発熱外来の実施及び東広島市のワクチン接種業務への協力など病院全体で対応を行った。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 入院受入患者数 R4:延842人（うち中等症以上582人）</li> <li>◆ 発熱外来患者数 R4:3,495人</li> <li>◆ ワクチン接種実施数 R4:3,421件</li> </ul> </li> </ul>

#### (3) 前経営計画の取組総括

##### ア 広島病院

令和4（2022）年度実績において、取組項目総数64のうち目標達成数は36であり、目標達成率としては、56%となった。

##### イ 安芸津病院

令和4（2022）年度実績において、取組項目総数32のうち目標達成数は12であり、目標達成率としては、38%となった。

##### ウ 新型コロナの影響

病院全体で新型コロナ対応を行ったことにより、県立病院として政策医療を担う使命を果たした一方で、新型コロナの感染拡大に伴い、一般病床などの新型コロナ専用病床への転換や新型コロナ患者に対応する人員確保のために一部の病棟の稼働を一時的に休止することなどを余儀なくされた結果、新規入院患者数や手術件数などの診療実績が落ち込み、医業収益が悪化するなど、病院経営への影響が生じている。



## 第V章 病院事業における課題

### 1 病院事業の課題

#### (1) 広島病院

広島病院は、県全体を視野に入れた救急医療・脳心臓血管医療・成育医療・がん医療を重点4分野に掲げ、重症度や緊急性が高く、難易度の高い疾患に対応できる病院としての医療機能の強化を行い、目標指標の多くを達成するなど、成果を上げてきた。

一方、患者数の推移や経営状況、取り巻く環境変化を分析すると、次のような課題がある。

##### ア 医業収支

新型コロナ対応を開始した令和元（2019）年度から令和2（2020）年度にかけて医業収支が悪化したが、コロナ禍前の水準に回復していないため、早期に経営改善を図る必要がある。

##### イ 患者数シェア

広島病院に期待される高度・専門医療や特殊な診断を必要とする患者に対応可能な機能を提供することが重要であるが、持続可能な病院経営のために目標とする利用患者数を達成できていない。特に、広島病院が位置する広島二次医療圏域の病院の中で、入院患者数のシェアが低い状況であるため、機能分化・連携強化を図りつつ、患者の掘り起こしが必要である。

##### ウ 紹介患者数

高度急性期・急性期の患者が多い広島市、特に南区及び中区の医療機関からの紹介件数が減少しているため、患者だけではなく医療機関からも選ばれる必要がある。

#### (2) 安芸津病院

安芸津病院は、少子高齢化・人口減少が進展する地域での医療のモデルを目指し、予防医療の強化や在宅療養支援の充実など、地域包括ケアの仕組みの構築に積極的に貢献する病院として、地域と一体となって地域住民の健康を支える取組の拡大に努めてきた。

一方、患者数の推移や経営状況、取り巻く環境変化を分析すると、次のような課題がある。

##### ア 医業収支

平成30年7月豪雨災害により、平成30（2018）年度から医業収支が悪化するとともに、新型コロナの影響もあり、平成29（2017）年度の水準に回復していないため、早期に経営改善を図る必要がある。

##### イ 耐震化対応

旧棟について、耐震性能が基準を下回っていることから、できるだけ早く、耐震化対応を進める必要がある。

##### ウ 医療資源

安芸津病院が立地する二次救急医療圏の竹原地区は、3病院で病院群輪番制病院を維持しているとともに、東広島市安芸津町（以下「旧安芸津町」という。）・大崎上島町には、小児科を標榜する診療所が1機関しかないなど、医療資源が限られた地域に安心を提供するため、現在の機能を維持し、地域に求められる医療を提供していく必要がある。

## 第VI章 実行計画

### 1 公立病院経営強化ガイドラインの6つの事項

#### (1) 役割・機能の最適化と連携の強化

地域医療構想及び地域包括ケアシステム構築を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

##### ア 広島病院

救命救急センター（第三次救急医療）、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院及び基幹災害拠点病院などとして、救急医療や成人医療、災害医療などの政策医療を実施し、県全体を視野に入れた基幹病院としての役割を果たし、高度急性期機能及び急性期機能を提供する。

##### イ 安芸津病院

病院群輪番制病院（第二次救急医療）として、旧安芸津町における唯一の入院機能を有し、地域の中核的病院としての役割を果たし、急性期からかかりつけまでの総合的な機能を提供する。

#### (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

##### ア 医師・看護師等の確保

臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実を図り、県内外からの若手を中心とした医師の確保に積極的に取り組むとともに、臨床研修指導医の養成に注力することなどにより、将来の医療を担う人材の育成に努める。

##### イ 医師の働き方改革への対応

令和6（2024）年4月から適用される医師の時間外労働の上限規制に対応するため、医師の確保による診療体制の充実を図るとともに、適切な労務管理により長時間となっている時間外労働の縮減等の勤務環境の改善が図られるよう取組を推進する。

##### (ア) 広島病院

時間外労働の上限については、原則としてA水準（年間960時間以下）とするが、三次救急医療を担っており地域医療の確保に必要な医療機関であるとともに、一部の医師において時間外・休日勤務時間が年間960時間を超えていることから、一部の診療科については、令和17（2035）年までの暫定措置が認められるB水準（年間1,860時間以下。ただし実際に定める36協定の上限時間以内となる。）の指定を受けたところであり、できる限り早い時期にすべての診療科においてA水準を目指す。

##### (イ) 安芸津病院

年間960時間以上の時間外・休日勤務を行っている医師はいないが、A水準を維持するために広島病院の取組を参考にしながら対応策を講じていく。

#### (3) 経営形態の見直し

本県においては、「高度医療・人材育成拠点ビジョン」の整備が進められており、令和7（2025）年4月に地方独立行政法人を設立し、新病院（整備前の広島病院、JR広島病院を含む）及び安芸津病院を一体的に運営する予定である。

#### (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

高度・専門医療及び政策医療を提供する県立病院としての役割を果たすために、新興及び再興感染症（以下「新興感染症等」という。）の流行状況など、県全体あるいは地域の医療情勢に応じて必要な役割を担うため、平時から関係部局と連携を図り、保健医療計画及び広島県感染症予防計画に沿った予防と発生時の速やかな対応に努める。

#### (5) 施設・設備の最適化

##### ア 施設・設備の適正管理と整備費の抑制

###### (ア) 広島病院

高度医療・人材育成拠点の整備を見据え、病院施設の改修や設備の更新などを計画的に行うことにより、資金収支の均衡を図りながら、施設・設備の適正管理と整備費の抑制に取り組む。

###### (イ) 安芸津病院

旧棟の耐震性能が公共施設に最低限必要とされる基準を下回っていたことから、耐震性能を確保するとともに、将来の経営を持続可能なものとするため、令和元（2019）年9月に広島県病院経営外部評価委員会内に医療関係者や地元自治体職員などで構成する安芸津病院耐震化対応検討専門部会を設置して議論を重ねてきたが、コロナ禍により議論が停滞していた。

令和6（2024）年度においては、耐震化対応の具体化を図るため、病院の規模、機能、具体的な手法、概算事業費などを整理した、基本構想及び基本計画を策定する。

##### イ デジタル化への対応（各病院共通）

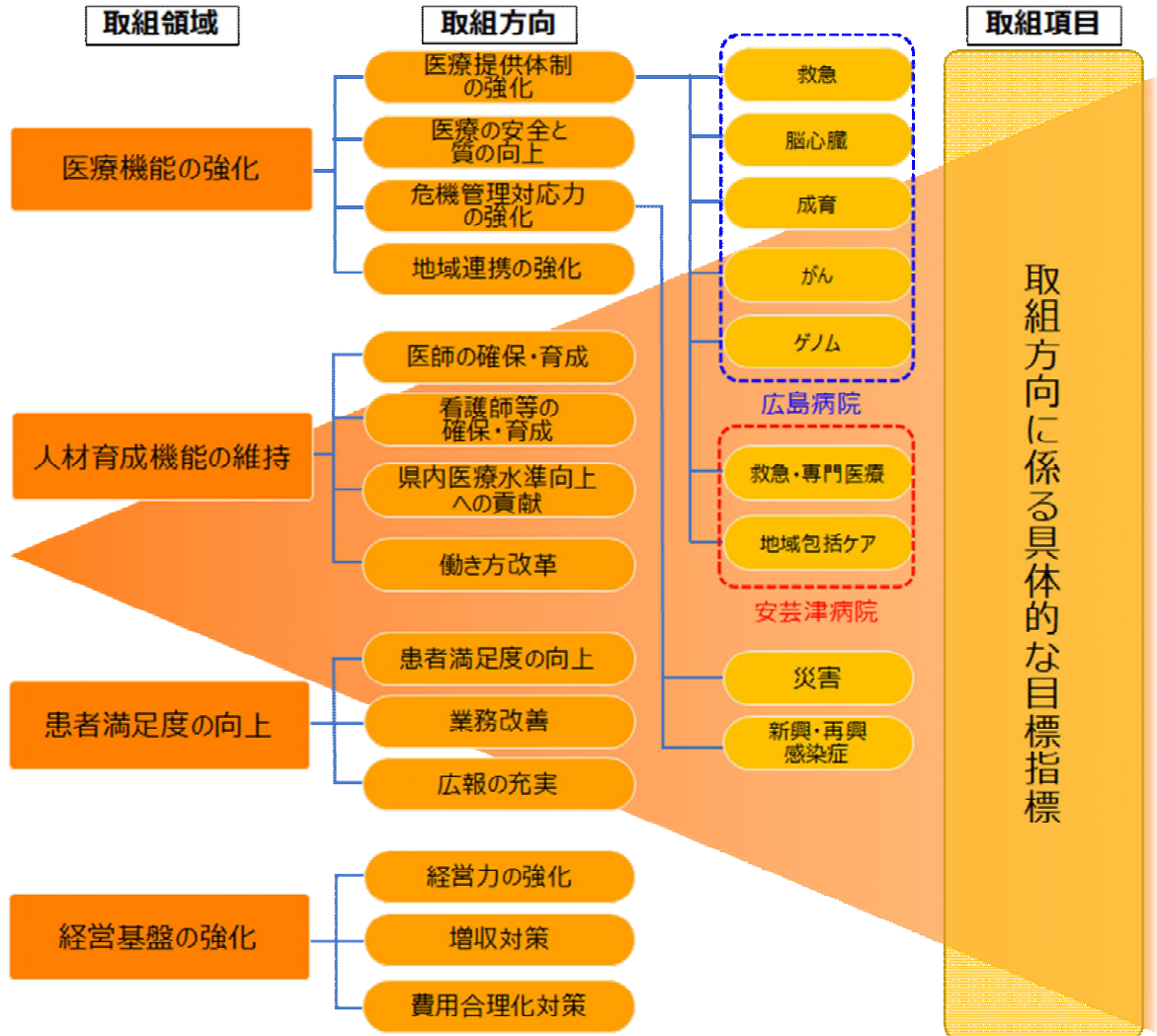
電子カルテの円滑な運用を図るとともに、地域医療機関とのHMネットをはじめとしたICTを活用したネットワークの構築、携帯端末などの活用を含めた医療DX、働き方改革並びに病院経営の効率化を推進するとともに、マイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）について、院内掲示等により普及啓発に努める。

なお、デジタル化に当たっては、国が作成した「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」などを踏まえ、情報セキュリティ対策を徹底する。

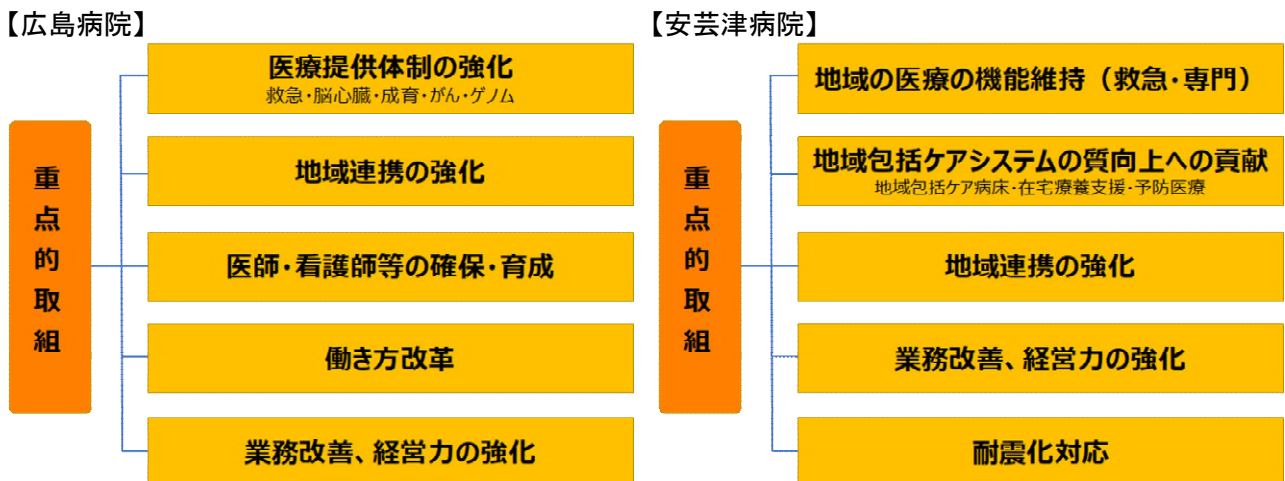
(6) 経営の効率化等

県立病院では、目指す姿の実現に向け、現行経営計画に経営強化ガイドラインにおいて要請されている事項を踏まえ、病院事業全体としての取組領域、取組方向及び取組項目とともに、各県立病院において重点的取組を設定し、具体的な取組を行う。(図表6、図表7)

図表6 取組体系図



図表7 各病院の重点的取組



## 2 具体的取組

本計画では、各病院が設定した重点的取組ごとに具体的に取り組む。

### (1) 広島病院

目標指標		R4目標 R4実績	R5目標 R5見込	R6目標
(1) 医療機能の強化				
I 医療提供体制の強化				
救急	<b>【重点指標】</b> 1) 救急車受入台数	6,500台 7,757台	8,000台 6,805台	7,300台
	2) 三次救急(ホットライン)受入率	100% 90.0%	100% 85.0%	100%
	3) 二次医療機関からの重症患者受入応需率	100% 92.0%	100% 94.0%	100%
脳心臓	<b>【重点指標】</b> 4) 脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	3,000人 2,767人	3,000人 2,802人	3,000人
	5) 急性心筋梗塞PCI件数	130件 100件	130件 130件	130件
	6) 急性期脳卒中に対する tPA治療件数	40件 30件	35件 26件	45件
	7) 急性期脳卒中に対する血管内カテーテルによる血栓回収療法件数	30件 44件	40件 28件	40件
	8) 未破裂、破裂動脈瘤の治療件数	75件 59件	65件 65件	70件
	9) 心大血管手術件数	75件 66件	80件 75件	80件
	10) 急性期リハビリテーション件数 (脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心大血管疾患リハビリテーション件数の合計)	40,200件 37,655件	41,800件 28,089件	41,800件
成育	11) 1,000g未満出生新生児患者数受入の県内割合	50% 65.5%	54% 51.0%	55%
	<b>【重点指標】</b> 12) 緊急母体搬送受入件数	125件 187件	150件 137件	150件
	13) 生殖医療科採卵件数	300件 402件	280件 250件	280件
	14) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数 ※21) 遺伝カウンセリング算定件数の内数	110件 52件	65件 27件	40件
	15) 生殖医療科で妊娠が成立した妊婦が産婦人科へ院内紹介された件数	100件 76件	135件 85件	100件
がん	16) 院内がん登録件数(暦年)	<del>2,100件</del> 2,166件	2,100件 2,166件	2,200件
	<b>【重点指標】</b> 17) 手術支援ロボットによる手術件数	<del>200件</del> 123件	200件 200件	200件
	<b>【重点指標】</b> 18) 内視鏡の粘膜下層剥離術件数	<del>200件</del> 234件	200件 236件	250件
ゲノム	<b>【重点指標】</b> 19) がんゲノムプロファイリング検査[新規]	<del>90件</del> 79件	90件 90件	100件
その他	20) 全身麻酔手術件数	4,500件 4,648件	4,800件 4,950件	5,000件
	21) 遺伝カウンセリング算定件数	120件 139件	230件 180件	280件
	22) DPC/PDPS入院期間Ⅱでの退院例のパス適用率	50% 57.5%	60% 60.0%	62%

目標指標		R4目標	R5目標	R6目標
		R4実績	R5見込	
(1) 医療機能の強化				
II 医療の安全と質の向上				
医療の安全と質	23) 転倒・転落発生率 レベル2以上 (軽度の処置を必要とした)	0.00030以下 0.00030	0.00030 0.00030	0.00030 以下
	24) 既に有していた褥瘡の改善率	72% 70.4%	72% 72.0%	72%
	25) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	8,000件 9,265件	9,000件 9,039件	9,200件
	26) がん患者指導管理料算定件数(口※) ※ががん患者指導料のうち看護師関与分	400件 271件	350件 296件	350件
チーム医療の推進	27) 認知症ケア加算算定件数	2,500件 4,823件	3,500件 5,996件	6,000件
	28) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数	3,800件 3,595件	3,800件 3,762件	3,800件
	29) 栄養サポートチーム加算算定件数	1,100件 1,127件	1,100件 1,277件	1,300件
	30) 糖尿病透析予防指導管理料算定件数	10件 14件	20件 11件	20件
	31) 周術期口腔機能管理料算定件数	6,000件 6,765件	7,500件 7,000件	7,500件
	32) 摂食機能療法算定件数	600件 823件	1,000件 893件	1000件
	33) 精神科リエゾンチーム加算算定件数	100件 97件	100件 86件	100件
その他	【重点指標】 34) 入院期間Ⅱ 超え割合	20% 22.8%	23% 22.2%	23%
	35) インフルエンザ・COVID-19アウトブレイク件数	0件 13件	0件 1件	0件
	III 危機管理対応力の強化			
災害	36) 院内災害対応訓練延参加者数	2,500人 3,263人	2,500人 3,401人	3,700人
	37) 当院企画の災害訓練・研修会への延参加医療機関数	18施設 190施設	50施設 186施設	200施設
新興・再興・感染症	38) 連携先医療機関に対する院内感染対策の助言実施回数【新規】	4回	4回	4回以上
IV 地域連携の強化				
39) 患者紹介率		93% 94.3%	93% 96.0%	93%
	40) 患者逆紹介率	125% 148.4%	125% 141.2%	125%
41) 院内研修への地域医療従事者の参加者数		160人 188人	160人 160人	180人
	42) 地域への教育活動件数	280件 465件	280件 280件	450人

目標指標	R4目標	R5目標	R6目標
	R4実績	R5見込	
(2) 人材育成機能の維持			
V 医師の確保・育成			
43) 専門研修プログラム専攻医数	広病2人 他 40人	広病4人 他25人	広病4人 他 20人
	広病 5人 他 21人	広病4人 他25人	
44) 臨床研修指導医新規受講者数	7人	7人	9人
	8人	7人	
45) 初期臨床研修医採用マッチ率	100%	100%	100%
	100%	100%	
46) 初期臨床研修医広島県内定着率	94.1%	100%	100%
	87.5%	100%	
VI 看護師等の確保・育成			
47) 看護師の離職率(定年退職を除く)	6.60%	6.60%	5.00%
	5.72%	6.60%	
48) 認定・専門・特定行為研修修了看護師数領域別養成数 【合計5人 認定看護師:手術看護、小児プライマリケア各1人 特定行為:外科系基本領域パッケージ2人、麻酔領域1人】	2人	3人	5人
	2人	3人	
49) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的資格取得者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)	60人	100人	123人
	109人	100人	
50) 学生実習の受け入れ実績	100人	450人	800人
	779人	720人	
VII 県内医療水準向上への貢献			
51) 医師・看護師等の講師派遣回数	200回	600回	600回
	603回	540回	
VIII 働き方改革			
52) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数		5人以下	5人以下
	7人	7人	
53) 医師一人当たりの時間外勤務時間		対前年度比 10%縮減	500時間 以内
	499時間	518時間	
(3) 患者満足度の向上			
IX 患者満足度の向上			
54) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ割合	75%	75%	82%
	78.3%	75.0%	
55) 患者アンケートの満足度(入院・外来)	97.5%	97.5%	97.5%
	97.4%	97.5%	
X 業務改善			
56) TQM手法習得者数(累積)	719人	841人	912人
	795人	842人	
XI 広報の充実			
57) 取材協力件数	10件	10件	10件
	22件	10件	
58) プレスリリース件数	5件	5件	5件
	4件	0件	

目標指標	R4目標	R5目標	R6目標
	R4実績	R5見込	
(4) 経営基盤の強化			
X II 経営力の強化			
【重点指標】 59) 新規入院患者数	16,900人	17,900人	20,000人
	16,421人	15,888人	
60) 病床稼働率(700床)	66.0%	70.3%	78.1%
	69.2%	68.8%	
X III 増収対策			
【重点指標】 61) 入院単価	89,800円	92,800円	90,000円
	90,377円	87,306円	
62) 特定入院料の算定率(ICU)	90%	90%	96%
	92.7%	96.2%	
63) 特定入院料の算定率(HCU) ※救命救急入院料算定病床	51%	55%	65%
	57.2%	64.1%	
X IV 費用合理化対策			
64) 材料費/医業収益	36.1%	36.1%	33.5%
	34.6%	35.8%	
65) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額	160,000千円	180,000千円	200,000千円
	157,189千円	176,931千円	



(2) 安芸津病院

目標指標		R4目標 R4実績	R5目標 R5見込	R6目標
<b>(1) 医療機能の強化</b>				
<b>I 医療提供体制の強化</b>				
救急・ 専門 医療	1)手術件数	290件 245件	290件 290件	320件
	2)内視鏡検査件数	1,900件 1,405件	1,900件 1,600件	1,900件
	【重点指標】 3)救急搬送受入件数	370件 401件	420件 370件	420件
	【重点指標】 4)専門外来受診患者数（糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア）	950人 1,058人	1,080人 1,400人	1,500人
地域 包括 ケア	【重点指標】 5)健(検)診件数	2,790件 2,940件	2,790件 3,400件	3,500件
	【重点指標】 6)訪問看護新規者数	32人 17人	32人 32人	35人
	7)地域包括ケア病床における在宅復帰率	85% 81.5%	85% 94.0%	90%
<b>II 医療の安全と質の向上</b>				
医療の 安全と 質	8)転倒・転落発生率(レベル2以上)	0.00020 0.00034	0.00020 0.00020	0.00020 以下
	9)入退院支援加算算定件数	800件 620件	800件 754件	800件
	10)せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	580件 541件	580件 650件	680件
	11)在宅患者支援病床初期加算算定件数	830件 1,104件	830件 1,400件	1,450件
チ ーム 推 進 医 療	12)栄養サポートチーム加算件数【新規】	<del>0件</del> 0件	<del>40件</del> 40件	110件
	13)排尿自立支援加算件数【新規】	<del>0件</del> 0件	<del>41件</del> 41件	120件
<b>III 危機管理対応力の強化</b>				
災害	14)災害に関する研修会・訓練実施件数【新規】	<del>2件</del> 2件	<del>3件</del> 3件	4件
新興・ 再興・ 感染症	15)感染症に関する研修会開催・ 院外件講師派遣回数【新規】	<del>9回</del> 9回	<del>8回</del> 8回	8回
<b>IV 地域連携の強化</b>				
	16)介護支援連携指導料算定件数	200件 31件	200件 62件	200件
	17)患者紹介率	23% 17.2%	23% 16.5%	23%
	18)患者逆紹介率	30% 21.5%	30% 22.5%	30%

目標指標	R4目標	R5目標	R6目標
	R4実績	R5見込	
(2) 人材育成機能の維持			
V 医師の確保・育成			
19) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数	8人	7人	7人
	7人	6人	
VI 看護師等の確保・育成			
20) 認定・専門看護師数	1人	1人	1人
	0人	1人	
21) メディカルスタッフ部門の認定資格取得 ・専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)	1人	1人	1人
	2人	1人	
VII 県内医療水準向上への貢献			
22) 地域開放型研修会の参加者数 (地域への講師派遣を含む。)		50人	50人
	25人	30人	
VIII 働き方改革			
23) 短時間勤務・部分休業・部分休暇取得者数[新規]			15人
	14人	16人	
24) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数		0人	0人
	0人	0人	
25) 医師一人当たりの時間外勤務時間		対前年度比 10%縮減	160時間
	199時間	181時間	
(3) 患者満足度の向上			
IX 患者満足度の向上			
26) 患者アンケートの満足度(入院)	98%	98%	98%
	93.2%	95.0%	
27) 患者アンケートの満足度(外来)[新規]			98%
	-	97.7%	
X 業務改善			
28) TQM手法習得者数	10人	10人	10人
	4人	0人	
29) 5S活動参加率	70%	80%	85%
	84.0%	80.0%	
XI 広報の充実			
30) 医療公開講座の一般参加者数[新規]			100人
	25人	100人	
(4) 経営基盤の強化			
XII 経営力の強化			
【重点指標】 31) 新規入院患者数	1,000人	1,000人	1,050人
	800人	1,000人	
32) 病床稼働率(98床)	90%	90%	90%
	59.2%	65.0%	
XIII 増収対策			
【重点指標】 33) 地域包括ケア病床稼働率	98%	98%	98%
	74.5%	78.5%	
34) 入院単価	35,000円	37,990円	40,000円
	44,598円	39,000円	
XIV 費用合理化対策			
35) 材料費/医業収益	22.8%	22.8%	22.5%
	21.5%	22.6%	
36) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額	300千円	760千円	900千円
	975千円	800千円	

### 3 収支計画

#### (1) 病院事業全体の収支計画

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	250,981	228,278	227,031	202,884	187,044	194,286	207,388	230,151
外来延患者数	362,844	347,100	330,427	295,378	301,577	301,318	294,022	325,131

(単位:百万円〔税込〕)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
病院事業収益								
医業収益	23,831	23,501	23,998	22,950	23,341	24,615	25,135	28,205
うち入院収益	16,703	16,288	16,609	15,762	15,631	16,816	16,861	18,997
うち外来収益	6,432	6,512	6,691	6,525	7,045	7,089	7,522	8,481
うち他会計負担金等	338	345	352	359	343	365	403	406
医業外収益	2,259	2,381	2,079	4,159	6,300	4,944	2,392	2,151
うち長期前受金戻入	519	522	488	482	519	538	537	530
特別利益	1	3	4	391	1	5	30	30
合 計	26,091	25,884	26,081	27,501	29,641	29,564	27,557	30,385
病院事業費用								
医業費用	24,990	25,149	25,760	26,011	26,520	27,950	29,228	29,780
うち給与費	13,142	13,124	12,994	13,257	13,217	14,006	14,458	14,429
うち材料費	7,296	7,315	7,958	7,886	8,244	8,420	8,897	9,231
うち経費	3,161	3,173	3,298	3,401	3,578	3,962	4,284	4,534
うち減価償却費	1,242	1,398	1,363	1,380	1,385	1,435	1,384	1,379
医業外費用	603	565	571	496	447	386	365	428
うち支払利息	414	367	317	268	217	164	119	92
うち負担金	91	99	157	135	130	122	117	202
特別損失	989	983	26	392	4	148	70	56
合 計	26,583	26,697	26,357	26,900	26,971	28,484	29,663	30,264
経常損益	496	167	▲ 254	602	2,674	1,223	▲ 2,066	148
特別損益	▲ 988	▲ 980	▲ 22	▲ 1	▲ 3	▲ 143	▲ 40	▲ 26
収益的収支差引	▲ 492	▲ 813	▲ 276	601	2,671	1,080	▲ 2,106	122

資本的収入								
企業債	1,091	700	623	641	810	1,744	859	2,587
負担金等	775	839	860	1,261	958	738	689	694
その他	9	7	3	14	9	6	51	28
合 計	1,874	1,545	1,486	1,916	1,777	2,488	1,599	3,309
資本的支出								
建設改良費	1,115	784	659	1,031	927	1,794	924	2,648
企業債償還金	2,096	2,335	2,447	2,498	2,473	2,243	1,959	2,054
その他	193	193	193	126	122	0	0	0
合 計	3,404	3,312	3,299	3,655	3,522	4,037	2,883	4,702
資本的収支差引	▲ 1,530	▲ 1,767	▲ 1,813	▲ 1,739	▲ 1,745	▲ 1,549	▲ 1,284	▲ 1,393

単年度資金収支	▲ 107	▲ 893	▲ 1,068	▲ 86	2,062	593	▲ 2,315	▲ 291
年度末内部留保	3,937	3,045	1,976	1,890	3,952	4,545	2,230	1,940

#### <繰入金>

一般会計繰入金 合計	2,640	2,628	2,614	4,973	6,865	5,371	2,604	2,484
収益的収入繰入金 計	1,865	1,789	1,753	3,802	5,947	4,635	1,956	1,816
資本的収入繰入金 計	775	839	860	1,171	918	736	648	669

経常収支比率	101.9%	100.6%	99.0%	102.3%	109.9%	104.3%	93.0%	100.5%
医業収支比率	95.4%	93.4%	93.2%	88.2%	88.0%	88.1%	86.0%	94.7%
修正医業収支比率	94.0%	92.1%	91.8%	86.9%	86.7%	86.8%	84.6%	93.3%
給与費／医業収益	55.1%	55.8%	54.1%	57.8%	56.6%	56.9%	57.5%	51.2%
材料費／医業収益	30.6%	31.1%	33.2%	34.4%	35.3%	34.2%	35.4%	32.7%
病床稼働率	86.2%	78.4%	77.7%	69.5%	64.2%	66.7%	71.2%	79.0%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

(2) 各病院の収支計画

ア 広島病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	217,436	199,610	197,928	176,276	168,290	176,816	183,427	199,610
外来延患者数	295,372	282,318	267,446	242,171	249,808	250,461	243,183	273,916

(単位:百万円(税込))

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
病院事業収益								
医業収益	22,131	21,924	22,413	21,458	22,080	23,274	23,648	26,472
うち入院収益	15,651	15,321	15,632	14,848	14,980	16,037	15,915	17,804
うち外来収益	5,910	6,029	6,215	6,073	6,567	6,659	7,111	8,070
うち他会計負担金等	266	271	278	286	268	286	326	330
医業外収益	1,943	2,056	1,772	3,732	5,445	4,183	2,067	1,759
うち長期前受金戻入	467	474	439	434	465	478	456	446
特別利益	1	3	4	352	1	0	30	30
合計	24,075	23,983	24,189	25,543	27,525	27,458	25,745	28,261
病院事業費用								
医業費用	22,980	23,128	23,758	24,011	24,459	25,814	26,949	27,415
うち給与費	11,961	11,921	11,829	12,091	12,039	12,786	13,219	13,192
うち材料費	6,972	7,000	7,642	7,588	7,938	8,132	8,573	8,855
うち経費	2,765	2,775	2,889	2,972	3,120	3,460	3,740	3,960
うち減価償却費	1,140	1,301	1,258	1,276	1,273	1,320	1,227	1,212
医業外費用	588	551	552	479	431	372	349	404
うち支払利息	413	366	317	268	217	164	118	89
うち負担金	85	93	147	126	123	115	112	192
特別損失	924	907	26	354	4	122	51	55
合計	24,492	24,586	24,336	24,844	24,894	26,308	27,348	27,874
経常損益	506	302	▲126	700	2,635	1,272	▲1,583	411
特別損益	▲923	▲904	▲22	▲1	▲3	▲121	▲21	▲25
収益的収支差引	▲417	▲603	▲147	699	2,632	1,150	▲1,604	386

資本的収入								
企業債	1,043	592	564	594	739	1,433	713	2,437
負担金等	675	737	765	1,133	845	706	643	626
その他	9	7	3	14	9	6	39	28
合計	1,727	1,337	1,332	1,741	1,593	2,144	1,395	3,092
資本的支出								
建設改良費	1,065	618	596	968	825	1,478	777	2,496
企業債償還金	2,022	2,259	2,384	2,434	2,406	2,180	1,889	1,922
その他	102	102	102	69	64	0		0
合計	3,189	2,979	3,081	3,471	3,296	3,658	2,666	4,418
資本的収支差引	▲1,462	▲1,642	▲1,749	▲1,730	▲1,703	▲1,514	▲1,271	▲1,326

単年度資金収支	▲95	▲660	▲940	▲45	1,991	607	▲1,989	▲53
---------	-----	------	------	-----	-------	-----	--------	-----

<繰入金>

一般会計繰入金合計	2,216	2,200	2,195	4,492	5,912	4,567	2,172	2,043
収益的収入繰入金計	1,541	1,463	1,430	3,401	5,089	3,863	1,559	1,441
資本的収入繰入金計	675	737	765	1,091	823	703	613	602

経常収支比率	102.1%	101.3%	99.5%	102.9%	110.6%	104.9%	94.2%	101.5%
医業収支比率	96.3%	94.8%	94.3%	89.4%	90.3%	90.2%	87.8%	96.6%
修正医業収支比率	95.1%	93.6%	93.2%	88.2%	89.2%	89.1%	86.5%	95.4%
給与費/医業収益	54.0%	54.4%	52.8%	56.3%	54.5%	54.9%	55.9%	49.8%
材料費/医業収益	31.5%	31.9%	34.1%	35.4%	35.9%	34.9%	36.3%	33.5%
病床稼働率	85.1%	78.1%	77.3%	68.8%	65.7%	69.0%	71.6%	77.9%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

イ 安芸津病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
入院延患者数	33,545	28,668	29,103	26,608	18,754	17,470	23,961	30,541
外来延患者数	67,472	64,782	62,981	53,207	51,769	50,857	50,839	51,215

(単位:百万円(税込))

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5見込	R6計画
病院事業収益	1,700	1,576	1,585	1,492	1,261	1,341	1,486	1,732
うち入院収益	1,052	967	977	914	652	779	947	1,193
うち外来収益	522	482	476	451	478	429	411	410
うち他会計負担金等	72	74	75	73	74	79	77	76
医療外収益	316	324	307	427	855	761	326	392
うち長期前受金戻入	52	48	49	48	55	59	81	84
特別利益	0	0	0	39	0	5	0	0
合計	2,015	1,901	1,892	1,958	2,116	2,106	1,812	2,125
病院事業費用	2,010	2,021	2,002	2,000	2,061	2,136	2,279	2,364
うち給与費	1,181	1,204	1,165	1,166	1,178	1,219	1,239	1,238
うち材料費	324	315	316	298	306	288	324	376
うち経費	396	398	410	429	457	501	544	574
うち減価償却費	102	97	105	103	112	115	157	167
医療外費用	15	14	19	17	16	14	16	24
うち支払利息	2	1	1	0	0	0	1	3
うち負担金	6	6	10	8	8	7	5	9
特別損失	66	76	0	39	0	26	20	1
合計	2,090	2,111	2,020	2,056	2,077	2,176	2,315	2,389
経常損益	▲9	▲135	▲129	▲98	39	▲48	▲483	▲263
特別損益	▲66	▲76	0	0	0	▲21	▲20	▲1
収益的収支差引	▲75	▲211	▲129	▲98	39	▲70	▲503	▲265

資本的収入	48	107	59	48	71	311	146	150
企業債等	100	101	95	128	113	32	46	68
その他	0	0	0	0	0	0	12	0
合計	147	208	154	175	184	344	204	217
資本的支出	50	166	63	63	102	316	147	152
建設改良費	74	75	63	64	67	63	70	132
その他	91	91	91	57	57	0	0	0
合計	215	333	217	184	226	379	217	284
資本的収支差引	▲68	▲125	▲63	▲9	▲41	▲35	▲13	▲67

単年度資金収支	▲12	▲233	▲128	▲42	72	▲14	▲327	▲238
---------	-----	------	------	-----	----	-----	------	------

<繰入金>

一般会計繰入金合計	424	428	418	481	953	804	432	441
収益的収入繰入金計	324	327	324	401	858	772	396	374
資本的収入繰入金計	100	101	95	80	95	32	36	66

経常収支比率	99.5%	93.4%	93.6%	95.2%	101.9%	97.7%	79.0%	89.0%
医療収支比率	84.6%	78.0%	79.2%	74.6%	61.2%	62.8%	65.2%	73.3%
修正医療収支比率	81.0%	74.3%	75.4%	71.0%	57.6%	59.1%	61.8%	70.0%
給与費/医療収益	69.5%	76.4%	73.5%	78.2%	93.5%	90.9%	83.3%	71.5%
材料費/医療収益	19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	24.3%	21.5%	21.8%	21.7%
病床稼働率	93.8%	80.1%	81.1%	74.2%	52.3%	48.7%	66.8%	85.1%

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

## 4 高度医療・人材育成拠点基本計画について

### (1) 基本計画の趣旨と位置づけ

本県においては、医師や診療科の偏在、高度医療機器の分散、都市部における医療機能の重複などに課題があり、とりわけ、高度な医療資源（医療スタッフ・高額医療機器・医療施設）が集中する広島都市圏において、医療資源を集約化することにより、県内全域を対象に高い水準の医療を提供するとともに、中山間地域の地域医療を維持する必要がある。

こうした中、令和4（2022）年3月に有識者会議から提言された「高度医療・人材育成拠点ビジョン」について、本県では「広島県地域医療構想」及び「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の方向性を踏まえ、広島大学、医師会、関係機関等と協議し、令和4（2022）年11月、拠点に必要な医療機能や広島都市圏の医療機能の分化・連携・再編の方向性等を「高度医療・人材育成拠点基本構想」として取りまとめた。

この基本構想に基づき、広島病院、JR広島病院、中電病院の3病院を中心に多くの医療資源を集約し、高度な医療や様々な症例が集積された魅力的な環境を整備することにより、全国から意欲ある若手医師を惹き寄せ、患者の状態に応じた切れ目のない医療を地域の医療機関と連携して提供する地域完結型医療を実現するとともに、広島県内で従事する医療人材の地域への派遣・循環体制の構築を目的とした新病院の基本計画として令和5（2023）年9月に策定した。

### (2) 基本計画の概要

#### ア 新病院の理念及び基本方針

##### (ア) 理念

県民の皆様信頼される基幹病院として、全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供するとともに、医療人材を育成し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる広島県の実現に貢献します。

##### (イ) 基本方針

- ・ 県民の信頼に応える病院
- ・ 職員にとってやりがいを持って、働きやすい病院
- ・ 環境にやさしい病院

#### イ 新病院の役割

##### (ア) 高度急性期医療機能

高度急性期・急性期を担う基幹病院として、最先端かつ多角的な医療技術を用いて、全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供する。

##### (イ) 医療人材育成機能

大学との連携により、高度急性期医療の提供に必要な医療スタッフを確保するとともに、地域の医療の質を強化するため、豊富な症例や充実した指導體制など魅力ある研修体制を整備し、若手医師をはじめとする医療人材を惹きつけ、育成する。

##### (ウ) 広島県の医療提供体制を支える機能

広島大学等と連携した中山間地域の医療機関に対する医療人材の派遣・循環の仕組みを構築することにより、中山間地域の医療提供体制の維持に努める。

## ウ 新病院の設置に向けて

### (ア) 医療機関の統合・再編による機能集約

広島都市圏に所在する広島病院、J R広島病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）の4つの医療機関が一体となって、主に急性期医療を担う新病院を構築する。また、医療機能の再編により、新病院を整備する適切な医療機能の分化と連携による地域完結型医療を実現するため、将来的な医療需要を見据えた医療再編の方向性について、引き続き各関係者と検討を進める。

### (イ) 広島都市圏における医療連携の方向性

広島都市圏における医療需要や、各医療機関が地域で担っている役割を踏まえ、患者の状態に応じた切れ目のない医療を提供できる体制の構築に取り組む。

### (ウ) 広島県全域との医療連携

新病院は、大学病院と連携した県内各地域の拠点病院とのネットワークの構築により、県民に全国トップレベルの高水準かつ安全な医療を提供し、医療連携のネットワークを通じた、広島県内の医療水準の向上に貢献する。

## エ 新病院の規模・機能

### (ア) 病床数

新病院の病床数は、将来の医療需要に加え、新病院が提供する医療レベルの向上や、集積した医療人材の育成機能の向上、さらには、高齢化に伴う救急医療需要の増加などを加味した上で、県内の高度医療の提供状況を踏まえ、必要十分な病床数として1,000床とする。

### (イ) 診療科及び新病院の主な機能

新病院の診療科目については、広島大学をはじめとした地域の医療機関との役割分担及び連携体制を踏まえ、現在、再編対象病院が有する診療科を維持しつつ、次に掲げる新病院が備えるべき専門性に合わせた41の科目を基本として検討する。また、新病院においては、高度急性期・急性期機能に加え、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、災害医療、へき地医療、精神医療などの医療機能を担う。

### (ウ) 医療従事者の確保・育成

- ・ 医師の確保育成
- ・ 看護師・医療技術職の確保育成
- ・ 働きやすい環境の整備

## オ 施設設備方針及び施設基本計画等

### (ア) 施設整備の主な方針

- ・ 安全で質の高い高度急性期・専門医療等を提供するために相応しい施設の整備
- ・ 医療人材の育成や働き方改革につながる施設の整備等
- ・ 時代の変化への対応
- ・ 安定的な経営環境の構築

## (イ) 施設基本計画

建設予定地は広島駅の北側の新幹線口周辺地区であり、概要は次のとおり。

図表 8 施設基本計画概要

区分	概要
位置	広島県広島市東区二葉の里 3 丁目 1 番 1 ( J R 広島駅新幹線口から約 300m )
敷地面積	26, 137. 75 m <sup>2</sup>
周辺道路	[南側] 14. 0m (市道)、 [東側] 9. 6m (市道)、 [北側] 11. 2m (市道)、 [西側] 14. 0m (市道)
延べ面積	約 115 千 m <sup>2</sup> (新病院棟：約 96 千 m <sup>2</sup> 、立体駐車場：約 18 千 m <sup>2</sup> 、 その他施設等：約 1 千 m <sup>2</sup> )

### 【整備手法】

新病院整備に当たっては、①全体工程への影響、②工事工期の短縮効果、③コスト縮減効果、④発注者（病院スタッフを含む）の意向の反映、⑤発注者の業務負担の 5 つの重要な視点からメリット・デメリットを整理した結果、E C I 方式を想定し検討を進める。

※ E C I 方式：施工予定業者が実施設計の段階から参画し、コスト縮減及び工期短縮が期待できる発注方式

## (ウ) その他整備計画（医療機器整備・物流・業務委託）

- ・ 医療機器整備
- ・ 物流システム整備
- ・ 業務委託

## (エ) 情報システム整備計画

- ・ 時代の変化に合わせた最新の I C T を各領域で横断的に活用することで病院機能を向上させ、次世代スマートホスピタルを実現する
- ・ 医療情報の集約による I C T 人材教育、高度な臨床研究機能を実現する
- ・ 医療情報 I C T 基盤の構築により、データを収集・蓄積し、利活用できる環境を整備する
- ・ 情報セキュリティ対策を実施し、安全性及び事業継続性が担保された情報システムを実現する

## カ 地域医療体制確保計画

### (ア) 医師配置調整の仕組みづくりに向けた方針

- ・ 地域ニーズの集約・調整
- ・ 配置要望の妥当性及び配置結果の検証
- ・ 各人事権者間の連携・調整

### (イ) 新病院の役割

- ・ 若手医師を惹きつける魅力的な環境整備
- ・ 中山間地域に勤務する医師への支援体制
- ・ 全国の医師に対する適切な P R 活動



## キ 新病院の運営形態

令和7（2025）年4月に地方独立行政法人を設立し、広島病院、JR広島病院及び安芸津病院の運営主体を統合し一体的に運営する。

また、令和12（2030）年の新病院開院時には、広島病院とJR広島病院・中電病院・広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）を新病院へ統合するとともに、その他の再編対象病院の機能を新病院へ集約する。

## ク 財務計画

### （ア）概算事業費

本計画の内容を踏まえた新病院整備に向けた概算事業費は、次のとおり。なお、建築資材・人件費などの原価高騰、物価上昇等により事業費の変動が発生する可能性があるが、収支計画への影響を精査し、持続的な経営の可能性を確認しつつ、事業を推進する。

図表9 概算事業費

項目	事業費	備考
土地購入費用	約180億円	
JR広島病院資産譲渡	約50～60億円	
基本設計・実施設計	約20億円	
建築工事等	約850～950億円	新病院等整備費 既存棟駐車場改修費 等
医療機器・システム	約170億円	既存医療機器を活用しつつ高度医療提供に必要な機器・システムを導入
県立広島病院建物解体費	約30億円	
合計	約1,300～1,400億円	※各項目における事業費は四捨五入していることから、合計と一致しません。

※ 新病院の財源は、大部分が病院事業債（特別分）となる見込みである。この他、広島県地域医療介護総合確保基金を活用した一般会計からの補助金など、活用可能な財源を確保し、実質負担の抑制に努める。

### （イ）収支計画

収支計画等のシミュレーション（20年平均）は次のとおり。本シミュレーションは現時点で想定される内容に基づくもので今後事業の各段階で検証を重ね、精度を高めていく必要があり、また、社会情勢等により変動する可能性がある。

図表10 収支計画（20年平均）

	収入		支出			純利益	資金収支
	うち入院収入		うち人件費	うち経費			
20年平均	474億円	302億円	462億円	204億円	47億円	12億円	0.5億円

※ 運営費負担金から国からの交付税措置を除く県の実質負担額については、新病院開院後、1年間で約8.5億円の負担が見込まれる。

## ケ 整備スケジュール

新病院の建設に当たっては、基本計画において取りまとめた部門別整備計画や施設基本計画の内容をもとに、医療関係者等の意見を伺いながら、基本設計及び実施設計において、引き続き具体的な検討を進めることとする。

なお、整備スケジュールは現時点での見込みであり、基本設計・実施設計において詳細なスケジュールの検討を行う。

図表 11 整備スケジュール

2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度	2029年度 令和11年度	2030年度 令和12年度	2031年度 令和13年度
基本計画	基本設計・実施設計		新病院建築工事			● 新病院開院		
契約手続			着工準備・ 契約手続				既存病院棟改修	

### (3) 基本計画の具体化に向けた取組

#### ア 基本計画の具体化

本県の医療を将来にわたり持続可能とするための基本計画に基づく新病院の整備に向け、基本設計及び組織体制の構築等を関係者と共に進める。

#### 〈基本計画を踏まえた本経営計画期間中の取組〉

- 基本計画を踏まえた、新病院の運営計画の具体化や各病院間の連携のあり方等の検討
- 医療人材の確保・育成に向けた、計画的な採用・交流及び必要な研修の仕組みづくり
- 組織風土の異なる病院の統合に向け、気運の醸成や技術向上を図るため、合同研修会及び情報交換会、人材交流などの計画の検討と実施
- 地方独立行政法人の体制構築や新病院開院までの再編対象病院の経営改善等の検討
- 広島病院の跡地活用の方向性の具体化に向けた検討
- 県民を対象に本県医療への理解を促進し、新病院整備の機運醸成を図るセミナーの開催
- 新病院の基本設計・地盤調査・埋蔵文化財の試掘に係る準備
- 地方独立行政法人の設立に向けて、人事給与、勤怠管理、財務会計、福利厚生システム、事務系システムの構築等 など

#### イ 住民理解のための取組

本計画を進めるにあたっては、県民の皆様から十分な理解を得ることが重要であるとの認識の下、これまで、ホームページ上での各種情報の公表、病院再編の影響が予想される地域の医療提供体制を検討するための地域懇話会の開催、広島病院移転後の医療体制などに関するアンケート調査、医療職団体などとの意見交換、県民公開セミナーの開催などにより、県民の皆様とコミュニケーションを図ってきたところであり、引き続き、県民の皆様にも新病院整備の意義や必要性について理解が得られるよう、コミュニケーションを継続して行う。

【巻末資料】 現行経営計画の目標指標達成状況（平成29（2017）年度～ 令和4（2022）年度）  
 《平成29（2017）年度～ 令和4（2022）年度》

【広島病院】（年度ごとに目標を達成した項目について「◎」としている。）

目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(1) 医療機能の強化								
I 医療提供体制の強化								
救急	【重点指標】 1) 救急車受入台数	5,500台 6,066台	◎ 5,700台 ◎ 6,089台	◎ 5,850台 ◎ 6,049台	◎ 6,000台 ◎ 5,736台	◎ 6,000台 ◎ 6,611台	◎ 6,500台 ◎ 7,757台	◎ 8,000台
	2) 三次救急（ホットライン）受入率	96.2%	92.4%	91.6%	91.7%	91.7%	100% 90.0%	100%
	3) 二次医療機関からの重症患者受入応需率	-	95.0%	94.0%	95.9%	95.3%	100% 92.0%	100%
脳心臓	【重点指標】 4) 脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	3,004人	2,882人	2,990人	2,940人	2,902人	3,000人 2,767人	3,000人
	5) 急性心筋梗塞PCI件数	100件	93件	98件	131件	112件	130件 100件	130件
	6) 急性期脳卒中に対する tPA治療件数	27件	30件	34件	23件	27件	40件 30件	35件
	7) 急性期脳卒中に対する血管内カテーテルによる血栓回収療法件数	24件	17件	29件	32件	33件	30件 44件	◎ 40件
	8) 未破裂、破裂動脈瘤の治療件数	73件	71件	73件	78件	60件	75件 59件	65件
	9) 心大血管手術件数	85件	62件	55件	75件	58件	75件 66件	80件
	10) 急性期リハビリテーション件数 （脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心大血管疾患リハビリテーション件数の合計）	48,829件	44,487件	38,963件	44,108件	45,000件 34,346件	40,200件 37,655件	41,800件
成育	11) 1,000g未満出生新生児患者数受入の県内割合	62.5%	52.5%	57.4%	55.1%	51.9%	50% 65.5%	◎ 54%
	【重点指標】 12) 緊急母体搬送受入件数	150件 165件	◎ 150件 ◎ 160件	◎ 150件 ◎ 131件	◎ 150件 ◎ 107件	◎ 131件 ◎ 123件	◎ 125件 ◎ 187件	◎ 150件
	13) 生殖医療科採卵件数	330件 284件	330件 283件	330件 282件	330件 241件	300件 257件	300件 402件	◎ 280件
	14) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数 ※2) 遺伝カウンセリング算定件数の内数	0件	2件	1件	105件	110件 114件	◎ 110件 ◎ 52件	65件
	15) 生殖医療科で妊娠が成立した妊婦が産婦人科へ院内紹介された件数	109件	107件	125件	73件	105件	100件 76件	135件
がん	16) 院内がん登録件数（暦年）		1,903件	1,965件	1,850件	1,860件	2,166件	2,100件
	【重点指標】 17) 手術支援ロボットによる手術件数					15件	123件	200件
	【重点指標】 18) 内視鏡的粘膜下層剥離術件数	109件	156件	168件	153件	205件	234件	200件
	【重点指標】 19) がんゲノム検査件数	7件	21件	77件	109件	120件 154件	◎ 180件 ◎ 189件	◎ 230件
その他	20) 全身麻酔手術件数	4,400件 4,571件	◎ 4,400件 ◎ 4,742件	◎ 4,400件 ◎ 4,663件	◎ 4,400件 ◎ 4,217件	◎ 4,500件 ◎ 4,365件	◎ 4,500件 ◎ 4,648件	◎ 4,800件
	21) 遺伝カウンセリング算定件数	0件	26件	20件	125件	218件	120件 139件	◎ 230件
	22) DPC/PDPS入院期間 I での退院例のパス適用率、DPC/PDPS入院期間 II での退院例のパス適用率	I :20.3% II :46.1%	I :22.0% II :52.2%	I :23.1% II :54.3%	I :26.1% II :52.8%	I :35.4% II :55.3%	I :40% II :50% I :33.9% II :57.5%	I :35% II :60%

目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標				
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績					
(1) 医療機能の強化												
II 医療の安全と質の向上												
チーム医療の推進	23) 認知症ケア加算算定件数	2,622件	2,123件	1,813件	2,267件	2,500件 3,313件	2,500件 4,823件	◎	◎	3,500件		
	24) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,212件	3,751件	3,832件	3,891件	3,800件 3,648件	3,800件 3,595件			3,800件		
	25) 栄養サポートチーム加算算定件数	940件	868件	1,132件	797件	660件	1,100件 1,127件		◎	1,100件		
	26) 糖尿病透析予防指導管理料算定件数	36件	24件	0件	10件	16件	10件 14件		◎	20件		
	27) 周術期口腔機能管理料算定件数	8,663件	6,275件	6,020件	6,049件	6,344件	6,000件 6,765件		◎	7,500件		
	28) 摂食機能療法算定件数	1,133件	1,062件	445件	596件	758件	600件 823件		◎	1,000件		
	29) 精神科リエゾンチーム加算算定件数	26件	97件	88件	84件	91件	100件 97件			100件		
	看護の質向上	30) 転倒・転落発生率 レベル2以上 (軽度の処置を必要とした)	-	-	0.0023	0.00047	0.0003以下 0.00029	0.0003以下 0.0003	◎	◎	0.0003	
31) 既に有していた褥瘡の改善率		-	-	69.0%	71.7%	71.0%	72% 70.4%			72%		
32) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数		-	-	-	7,109件	8,000件 8,628件	8,000件 9,265件	◎	◎	9,000件		
33) がん患者指導管理料算定件数(ロ※) ※がん患者指導料のうち看護師関与分		283件	324件	293件	341件	251件	400件 271件			350件		
その他	【重点指標】 34) 入院期間Ⅱ超え割合	28.0%	27.6%	26.7%	25.6%	25% 21.2%	20% 22.8%	◎		23%		
	35) インフルエンザ・COVID-19アウトブレイク件数	1件	1件	1件	0件	2件	0件 13件			0件		
III 危機管理対応力の強化												
	36) 院内災害対応訓練延参加者数	-	-	106人	2,191人	3,621人	2,500人 3,263人		◎	2,500人		
	37) 当院企画の災害訓練・研修会への延参加医療機関数	-	-	9施設	10施設	64施設	18施設 190施設		◎	50施設		
IV 地域連携の強化												
	38) 患者紹介率	83% 97.7%	◎	85% 93.4%	◎	87% 93.5%	◎	90% 88.1%		93% 93.8%	◎	93%
	39) 患者逆紹介率	100% 114.1%	◎	105% 125.6%	◎	107% 120.6%	◎	110% 120.7%	◎	120% 141.3%	◎	125% 148.4%
	40) 院内研修への地域医療従事者の参加者数	450人 484人	◎	450人 620人	◎	450人 567人	◎	450人 170人		450人 677人	◎	160人 188人
	41) 地域への教育活動件数	390件		257件		289件		196件		280件 334件	◎	280件 465件

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(2) 人材育成機能の維持							
V 医師の確保・育成							
42) 専門研修プログラム専攻医数	-	広病 0人 他 31人	広病 1人 他 32人	広病 3人 他 35人	広病 5人 他 22人	広病2人 他 40人 広病 5人 他 21人	広病4人 他25人
43) 臨床研修指導医新規受講者数	6人	6人	7人	0人	7人 11人	7人 8人	7人
44) 初期臨床研修医採用マッチ率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
45) 初期臨床研修医広島県内定着率	81.3%	85.7%	94.1%	88.9%	100%	94.1% 87.5%	100%
46) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数	-	-	-	-	-	7人	5人以下
47) 医師一人当たりの時間外勤務時間	-	-	-	-	-	499時間	対前年度比 10%縮減
VI 看護師等の確保・育成							
48) 看護師の離職率(定年退職を除く)	-	-	6.64%	6.69%	3.62%	6.60% 5.72%	6.60%
49) 認定・専門・特定行為研修修了看護師数領域別確保数 【17領域37名(新規2名)、(特定行為研修者ががん薬物療法(1)心不全看護(1))】	1人	2人	1人	0人	2人 1人	2人 2人	3人
50) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的資格取得者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)	147人	129人	114人	19人	60人 95人	60人 109人	100人
51) 学生実習の受け入れ実績 (まん延防止等重点措置以上の対策期間中以外は原則受け入れる)	426人	478人	437人	69人	440人	100人 779人	450人
VII 県内医療水準向上への貢献							
52) 医師・看護師等の講師派遣回数	200回 390回	200回 257回	200回 289回	200回 203回	200回 589回	200回 603回	600回
(3) 患者満足度の向上							
VIII 患者満足度の向上							
53) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ割合	78.2%	68.4%	88.6%	65.0%	56.7%	75% 78.3%	75%
54) 患者アンケートの満足度(入院・外来)	97.3%	96.4%	97.1%	97.0%	97.5% 97.3%	97.5% 97.4%	97.5%
IX 業務改善							
55) TQM手法習得者数(累積)	219人	329人	431人	541人	652人	719人 795人	841人
X 広報の充実							
56) 取材協力件数	4件	4件	6件	8件	10件 34件	10件 22件	10件
57) プレスリリース件数	1件	0件	0件	0件	5件 2件	5件 4件	5件

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標	
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績		
(4) 経営基盤の強化								
X I 経営力の強化								
<b>【重点指標】</b>	16,920人	17,000人	17,000人	17,000人	17,000人	16,900人		17,900人
58) 新規入院患者数	17,313人	16,834人	16,825人	15,624人	15,895人	16,421人		
59) 病床稼働率(700床)	87.7%	88.1%	87.9%	88.1%	70.0%	66.0%	◎	70.3%
	85.1%	78.1%	77.3%	71.5%	65.9%	69.2%		
X II 増収対策								
<b>【重点指標】</b>	68,846円	69,200円	69,600円	70,000円	83,029円	89,800円		92,800円
60) 入院単価	71,980円	76,753円	78,977円	82,902円	89,013円	90,377円	◎	
61) 特定入院料の算定率(ICU)	72.1%	85.7%	90.3%	85.9%	92.6%	92.7%	◎	90%
62) 特定入院料の算定率(HCU) ※救命救急入院料算定病床	48.9%	43.4%	51.3%	49.6%	51%	51%	◎	55%
					57.6%	57.2%		
X III 費用合理化対策								
63) 材料費/医業収益	30.3%	30.4%	30.7%	31.1%	36.1%	36.1%	◎	36.1%
	31.5%	31.9%	34.1%	35.7%	36.8%	34.6%		
64) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額	-	-	32,170千円	54,876千円	35,000千円	160,000千円	◎	180,000千円
					60,758千円	157,189千円		

【安芸津病院】（年度ごとに目標を達成した項目について「◎」としている。）

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(1) 医療機能の強化							
I 医療提供体制の強化							
1) 手術件数	380件 344件	380件 326件	380件 278件	380件 262件	290件 211件	290件 245件	290件
2) 内視鏡検査件数	1,850件 1,693件	1,900件 1,650件	1,950件 1,698件	2,000件 1,505件	1,900件 1,387件	1,900件 1,405件	1,900件
【重点指標】 3) 救急搬送受入件数	370件 401件	◎ 370件 349件	◎ 370件 406件	◎ 370件 359件	370件 301件	370件 401件	◎ 420件
【重点指標】 4) 専門外来受診患者数 (糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア)	328人	575人	665人	754人	770人 954人	◎ 950人 1,058人	◎ 1,080人
【重点指標】 5) 健(検)診件数	2,337件 2,715件	◎ 2,337件 2,838件	◎ 2,337件 3,254件	◎ 2,337件 2,743件	◎ 2,790件 3,019件	◎ 2,790件 2,940件	◎ 2,790件
【重点指標】 6) 訪問看護新規者数	28人	27人	27人	30人	28人	32人 17人	32人
7) 地域包括ケア病床における在宅復帰率	80.0% 89.2%	◎ 80.0% 81.7%	◎ 80.0% 84.9%	◎ 80.0% 89.1%	◎ 85.0% 78.6%	85.0% 81.5%	85%
II 医療の安全と質の向上							
8) 転倒・転落発生率(レベル2以上)	0.00027	0.00045	0.00055	0.00019	0.00020 0.00048	0.00020 0.00034	0.00020
9) 入院支援加算算定件数	607件	729件	834件	769件	800件 676件	800件 620件	800件
10) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	-	-	-	573件	553件	580件 541件	580件
11) 在宅患者支援病床初期加算算定件数	-	-	-	694件	762件	830件 1,104件	◎ 830件
III 危機管理対応力の強化							
12) 感染症に関する研修参加率	-	-	-	-	100%	100%	◎ 100%
IV 地域連携の強化							
13) 介護支援連携指導料算定件数	120件 127件	◎ 120件 123件	◎ 120件 228件	◎ 120件 124件	200件 47件	200件 31件	200件
14) 患者紹介率	18.8%	17.9%	20.4%	21.5%	23.0% 17.7%	23.0% 17.2%	23.0%
15) 患者逆紹介率	23.4%	26.1%	28.4%	29.7%	30.0% 28.6%	30.0% 21.5%	30.0%

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績	
(2) 人材育成機能の維持							
V 医師の確保・育成							
16) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数	7人 10人	◎ 7人 ◎ 8人	◎ 7人 ◎ 8人	◎ 7人 ◎ 8人	◎ 8人 ◎ 8人	◎ 8人 ◎ 7人	7人
17) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数	-	-	-	-	-	0人	0人
18) 医師一人当たりの時間外勤務時間	-	-	-	-	-	199時間	対前年度比 10%縮減
VI 看護師等の確保・育成							
19) 認定・専門看護師数	- 0人	- 0人	- 0人	- 0人	1人 ◎ 1人	1人 ◎ 0人	1人
20) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)	- 1人	- 1人	- 0人	- 0人	1人 ◎ 4人	1人 ◎ 2人	◎ 1人
VII 県内医療水準向上への貢献							
21) 地域開放型研修会の参加者数 ※(地域への講師派遣を含む。)	- 186人	- 194人	- 153人	- 0人	- 30人	- 25人	50人
(3) 患者満足度の向上							
VIII 患者満足度の向上							
22) 患者アンケートの満足度(入院)	95.0% ◎ 97.9%	◎ 95.0% ◎ 97.1%	◎ 95.0% ◎ 97.4%	◎ 95.0% ◎ 99.1%	◎ 98.0% ◎ 94.8%	◎ 98.0% ◎ 93.2%	98.0%
23) 電話再診件数	- 0件	- 0件	- 11件	- 188件	250件 ◎ 363件	200件 ◎ 436件	◎ 350件
IX 業務改善							
24) TQM手法習得者数	- 20人	- 33人	- 23人	- 0人	20人 0人	10人 4人	10人
25) 5S活動参加率	-	-	-	-	91.0%	70.0% ◎ 84.0%	◎ 80.0%
X 広報の充実							
26) HP閲覧件数	-	-	-	-	16,500件 ◎ 22,673件	16,500件 ◎ 25,236件	◎ 23,000件
(4) 経営基盤の強化							
XI 経営力の強化							
【重点指標】 27) 新規入院患者数	- 1,192人	- 1,056人	- 1,112人	- 988人	- 830人	1,000人 ◎ 800人	1,000人
28) 病床稼働率(98床)	- 93.8%	- 80.1%	- 81.1%	- 74.4%	- 73.6% ◎ 65.7%	90.0% ◎ 59.2%	90.0%
XII 増収対策							
【重点指標】 29) 地域包括ケア病床稼働率	98.0% ◎ 101.0%	◎ 98.0% ◎ 93.1%	◎ 98.0% ◎ 89.9%	◎ 98.0% ◎ 89.7%	◎ 98.0% ◎ 63.3%	◎ 98.0% ◎ 74.5%	98.0%
30) 入院単価	- 31,358円	- 33,737円	- 33,561円	- 34,356円	- 34,207円	35,000円 ◎ 44,598円	◎ 37,990円
XIII 費用合理化対策							
31) 材料費/医業収益	- 19.1%	- 20.0%	- 19.9%	- 20.0%	22.8% ◎ 24.3%	22.8% ◎ 21.5%	◎ 22.8%
32) 後発医薬品及びバイオ後続品切替効果額	-	-	-	-	150千円	300千円 ◎ 975千円	◎ 760千円